



最初にお読みください

## CentreCOM 8316XL/8324XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8316XL/8324XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0249-10 Rev.B）とコマンドリファレンス（J613-M0249-11 Rev.F）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

### 1 ファームウェアバージョン 2.7.7-01

### 2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **2.7.7-00** から **2.7.7-01** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 ポートトランキング /LACP 使用時、トランクグループからリンクアップしているポートを削除すると、本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。

また、LACP 使用時、トランクグループ内のポートがリンクダウンすると、本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。


### 3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **2.7.7-01** には、以下の制限事項があります。

#### 3.1 スクリプト

スクリプトで IF THEN ELSE 文を使用する際、比較対象文字列の長さが 32 文字以上の場合、スクリプトが正しく動作しません。31 文字以下の長さの比較対象文字列を使用してください。


#### 3.2 認証サーバー

 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「認証サーバー」

- 複数の IP インターフェース（IP アドレス）を設定している場合、RADIUS Access-Request パケットの始点 IP アドレスと NAS-IP-Address の値が異なることがあります。両者を一致させたい場合は、RADIUS サーバーの指定時（ADD RADIUS SERVER コマンドの実行時）に、LOCAL パラメーターでローカル IP インターフェースを指定してください。
- RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。

---


### 3.4 アップロード・ダウンロード

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「アップロード・ダウンロード」

- TFTP によるアップロード時 (UPLOAD METHOD=TFTP)、IPv6 アドレスの指定ができません。
- ZMODEM によるファイル受信中 (LOAD METHOD=ZMODEM) にターミナルソフト側で送信をキャンセルすると、コマンドプロンプトに復帰しないことがあります。ターミナルソフトが Windows 付属のハイパーターミナルの場合、本現象は起こりません。

---

### 3.5 ログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「アップロード・ダウンロード」

DESTINATION=NVS のログ出力先定義に対し、SET LOG OUTPUT コマンドで MESSAGES パラメーター (保存件数) を変更すると、すでに NVS 上に保存されていたメッセージがすべて消去されます。

---


### 3.6 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

- イーサネット MIB の dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。
- イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- 既に作成されているユーザーグループに対して SET SNMP GROUP コマンドで SECURITYLEVEL を変更することはできません。
- SNMP マネージャーと通信しているトランクポートのケーブルを抜くと、リンクダウントラップが送出されない場合があります。

---


### 3.7 SHOW NTP コマンドの「Host Address」表示

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「NTP」

本製品の IP アドレスを変更しても、SHOW NTP コマンドの「Host Address」欄 (NTP モジュールの使用している IP アドレス) が更新されません。これは表示だけの問題で動作には影響ありません。

---

### 3.8 非同期ポート

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「非同期ポート」

- SET ASYN コマンドの PROMPT パラメーターでコマンドプロンプトの文字列を変更した後、「SHOW CONFIG DYNAMIC」を実行すると、プロンプト文字列がデフォルト設定に戻ります (SET ASYN コマンドの設定自体はダイナミックコンフィグ中に残っています)。
- 非同期ポート端末の画面あたりの行数をデフォルトの 21 またはそれ以上に設定した場合、SHOW IP ARP コマンドの結果が設定した値 +20 行分表示されます。

---


### 3.9 ターミナルサービス

 **【コマンドリファレンス】/【運用・管理】/【ターミナルサービス】**

TELNET コマンドの実行時に DNS サーバーへの問い合わせが行われた場合、DNS サーバーからの応答に IPv6 アドレスが含まれていると、TELNET コマンドが反応しなくなります。

---


### 3.10 ポートトランキング

 **【コマンドリファレンス】/【スイッチング】/【ポート】**

- 同じポートにポートトランキングとポートセキュリティを併用した場合、ポートセキュリティにより登録した MAC アドレスがトランクグループに移動しません。
- ポートトランキングとスパニングツリープロトコルを併用した場合、古い番号のポートがマスターポートになる場合があります。
- ポートトランキングと IGMP Snooping の併用時、マスターポートがリンクダウンすると SHOW IGMP Snooping コマンドで表示される Entry timeout 値が更新されます。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。  
(「マスターポート」はトランクグループ内で最初にリンクアップしたポートを示します)
- 通常、トランクグループに属するポートは、同一 VLAN の所属で、同一のタグ設定 (タグ付き・タグなし) にする必要がありますが、ポートをトランクグループに登録後、SET VLAN PORT コマンドによりポートごとのタグ付きまたはタグなしの変更を行うと、「Operation Successful」と表示され、変更が適用されます。VLAN のタグ付き・タグなしを変更する場合は、トランクグループに所属するすべてのポートについて同じ設定を行ってください。
- マルチプル VLAN (Protected Port VLAN) のアップリンクポートに設定したポートとクライアントポートに設定したポートを、同じトランクグループに所属させることができず、アップリンクポートとクライアントポートは同一のトランクグループに所属させないでください。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドの PORT パラメーターでトランクポートを指定した場合、指定ポートがマルチプル VLAN (Protected Port VLAN) の同一グループ所属であるかのチェックが行われません。これを回避するため、マルチプル VLAN とポートトランキングを併用するときは、先にトランクグループを作成してから、トランクグループをマルチプル VLAN に割り当ててください。

---

### 3.11 LACP (IEEE 802.3ad)


 **【コマンドリファレンス】/【スイッチング】/【LACP(IEEE 802.3ad)】**

- LACP によって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して CREATE SWITCH TRUNK コマンドを実行すると、通信ができなくなります。
- トランクグループ内のポートがリンクダウンすると、トランクグループ内の他のポートもリンクダウンするため通信が一時的に途絶えることがあります。

- LACP とポートセキュリティーを併用すると、LACP によるトランクポートの生成は行われません。

---

### 3.12 ポート認証

 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート認証」

- 802.1X Multi-Supplciant モードの Authenticator ポートでは、Port Status が authorised でも IGMP Query パケットがフラッディングされません。
- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効にしてから再度有効にすると、Authenticator は Supplciant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。
- SNMP マネージャーで、dot1xAuthAuthControlledPortControl の情報を変更 (Set) した後、設定を保存すると、設定の変更が設定ファイルに反映されません。Authenticator ポートの状態を手動で変更する場合は、SET PORTAUTH PORT コマンドの CONTROL パラメーターで指定してください。

---


### 3.13 バーチャル LAN

 「コマンドリファレンス」/「バーチャル LAN」

通信中のポートを新しい VLAN に割り当てると、新旧の VID で登録された MAC アドレスが FDB に共存してしまい、VLAN を越えてユニキャストメッセージが通信されてしまう場合があります。この現象を回避するには、RESET SWITCH FDB コマンド、リンクダウン、エージングタイマーの発動によって FDB の MAC アドレスを削除するか、ポートが通信を行っていない状態で VLAN の割り当てを行ってください。

---

### 3.14 スパニングツリープロトコル

 「コマンドリファレンス」/「スパニングツリープロトコル」

ポートランキング（または LACP）とスパニングツリープロトコル（STP/RSTP）を併用する場合、トランクグループのマスターポートがリンクダウンすると、トランクグループ内の他のポートが正常にリンクしているにも関わらず Topology Change が発生します。

---

### 3.15 マルチプルスパニングツリープロトコル


 「コマンドリファレンス」/「スパニングツリープロトコル」/「Multiple STP」

- マルチプルスパニングツリープロトコル（MSTP）を有効にすると、ミラーポートからも BPDU を送信します。
- マルチプルスパニングツリープロトコル（MSTP）を有効にすると、ランタイムコンフィグから DELETE VLAN コマンドの設定が削除されます。これを回避するには、再起動トリガーを使用して起動直後に同コマンドを実行させてください。

- SET MSTP コマンドの PROTOCOLVERSION パラメーターに RSTP を指定するとループが発生します。本製品の配下に RSTP 動作中のスイッチが存在している場合でも、PROTOCOLVERSIONには RSTP を指定せず、デフォルト値の MSTP でご使用ください。

---


### 3.16 フォワーディングデータベース

 **【コマンドリファレンス】/「フォワーディングデータベース」**

エラーパケットを受信したときも、送信元 MAC アドレスをフォワーディングデータベース (FDB) に登録します。

---

### 3.17 ハードウェアパケットフィルタ

 **【コマンドリファレンス】/「ハードウェアパケットフィルタ」**

フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルタエントリを作成した場合、このエントリはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチしてしまいます。

---


### 3.18 IP

 **【コマンドリファレンス】/「IP」**

本バージョンでは、PURGE PING TOTALLY コマンドは未対応となっております。

---


### 3.19 IP インターフェース

 **【コマンドリファレンス】/「IP」/「IP インターフェース」**

- DHCP クライアント機能を有効から無効に変更しても (IP アドレスを固定設定しても)、該当インターフェースから DHCP サーバ宛ての要求パケットが送信され続けることがあります。
- ADD/SET IP INTERFACE コマンドで他の VLAN と重複するネットワークアドレス (IP アドレス / ネットマスク) を指定しても、エラーになりません。重複したアドレスを設定しないよう注意してください。

---

### 3.20 IGMP

 **【コマンドリファレンス】/「IP マルチキャスト」/「IGMP」**

- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。
- IGMP 設定時、StartUp Query Count は本来 Robustness Variable と同じ値になるはずですが、Robustness Variable-1 となっています。

---

### 3.21 IGMP Snooping

 **【コマンドリファレンス】/「IP マルチキャスト」/「IGMP Snooping」**


IGMP Snooping 使用時、複数のメンバーが存在するマルチキャストグループから 1 つのメンバーが脱退すると、SHOW IGMP SNOOPING コマンドで表示される Entry timeout が更新されます。

## 4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

---

取扱説明書、および「CentreCOM 8316XL/8324XL コマンドリファレンス 2.7 (Rev.F)」の補足事項と誤記訂正です。

### 4.1 スタンドキット「AT-STND-J01」について (CentreCOM 8316XL のみ対象)


 「取扱説明書」 17 ページ

取扱説明書に記載がありませんが、CentreCOM 8316XL はスタンドキット「AT-STND-J01」に対応しています。

### 4.3 フラッシングレートについて (CentreCOM 8324XL のみ対象)


10/100Mbps ポートが24ポートリンクした状態で、拡張モジュールの1000Mbpsポート(ポート25)からフラッシングパケットを送信すると、1000Mbpsポート(ポート26)から送信されるパケットの転送率が下がる場合があります。

### 4.4 SNMP について

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」


ブロードキャストパケット受信時に、SHOW INTERFACE コマンドで表示されるVLANインターフェースのifInDiscardsがカウントされます。

### 4.5 ログ機能について

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

出力先に「TEMPORARY」と「PERMANENT」を設定してCREATE LOG OUTPUTコマンドで出力先の定義のみ行って設定を保存し再起動すると、メッセージフィルターのエントリーが設定されないためログは出力されないはずですが、ログが出力されることがあります。これは、本製品がデフォルトの状態ではログ機能が有効であり、起動時にログの出力先として「TEMPORARY」と「PERMANENT」を設定して、メッセージフィルターが追加されるため、設定ファイルのCREATE LOG OUTPUTコマンドが実行されるまでの間、ログが出力されるためです。


### 4.6 スイッチング動作について

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- パケットの送信先MACアドレスがBPDUのアドレスになっていても、DSAP (Destination Service Access Point) / SSAP (Source Service Access Point)に「0x42」が指定されていなければ、BPDU透過機能の対象にはなりません。
- 予約済マルチキャストパケットの処理で、送信元アドレスが、01-80-C2-00-00-00 ~ 01-80-C2-00-00-10 および 01-80-C2-00-00-20 ~ 01-80-C2-00-00-2F のパケットはフィルタリングされます。それ以外のパケットは、フラッシングされます。

---

#### 4.7 1000M Full Duplex 固定設定時の LED 表示について

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**


拡張モジュールスロットに、拡張モジュール「AT-A51」または「AT-A53」を装着したときに、SET SWITCH PORT コマンドで SPEED=1000MFULL を指定してケーブルを接続してリンクが確立した後にケーブルを抜くと、下記の場合に、LINK LED の表示が正しくなくなります。

- ・ TX ポートのケーブルを抜くと、ケーブルを抜いた機器の LINK LED が点灯したままになる
- ・ RX ポートのケーブルを抜くと、ケーブルを抜いていない機器の LINK LED が点灯したままになる

どちらの場合も、LINK LED が点灯したままのポートのリンクステータスは、Up のままです。

---


#### 4.8 MAC ベース認証ポートについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」**

MAC ベース認証ポートにおいて、認証に成功した Supplicant を定期的に再認証する設定 (ENABLE PORTAUTH PORT コマンドの REAUTHENABLED パラメーターに TRUE を指定) にしても再認証が行われません。

---


#### 4.9 VLAN 名の文字数について

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

バージョン 2.7.3-06 から、VLAN 名に使用できる文字数が 15 文字から 32 文字に拡張されました。16 文字以上の VLAN 名を指定して設定を保存し、ファームウェアをバージョン 2.7.3-06 より前のものに変更して、保存した設定ファイルを起動時設定ファイルに設定すると、16 文字以上の VLAN 名は有効でないため、VLAN の設定が反映されません。

---


#### 4.10 タグ VLAN 併用時の STP BPDU について

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパンニングツリープロトコル」**

スパンニングツリープロトコル (STP) とタグ VLAN の併用時、タグつきポートが単一の VLAN に属する場合、BPDU にはタグを付加しません。タグつきポートが複数の VLAN に属する場合は、BPDU にはタグが付加されます。

---


#### 4.11 ハードウェアパケットフィルターについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「ハードウェアパケットフィルター」**

- ADD SWITCH L3FILTER MATCH コマンドの NOMATCHACTION パラメーターでデフォルトのアクションを指定したハードウェアパケットフィルターが存在する場合、その他のフィルターにマッチするパケットに対して、このアクションが実行されてしまいます。
- 複数のマッチ条件を指定したとき、マッチ条件の型が一致するような場合には、本製品のソフトウェアでマッチ条件が一つにまとめられる場合があります。同じパケットに対する処理でも、複数のマッチ条件がまとめられた場合と、一つ一つ実行された場合で、結果が異なる場合があります。

---


#### 4.12 ICMP Reply の送信について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

VLAN A、B を作成し、それぞれの VLAN に別ネットワークのアドレスを指定（VLAN A に 192.168.1.10、VLAN B に 192.168.1.20 指定、VLAN 内にルーターが存在）した場合に、VLAN A に所属する端末 C から VLAN B 宛に ICMP Request を送信すると、VLAN A と B は異なるネットワークに所属するにも関わらず、ルーターを介さずに、VLAN A から ICMP Reply が送信されます。またこの場合に、VLAN B から A への通信にハードウェアパケットフィルターを設定していても、この ICMP Reply はフィルターの条件にマッチしません。これは、ICMP Reply を送信する際に、送信先アドレスを IP アドレスのみで検索し、そのアドレスの所属するインターフェースを送信元としているためです。

---


#### 4.13 DNS サーバーの動的取得について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

---


#### 4.14 ARP エントリーについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

- インターフェースの状態が Up になった場合、同一ポート上に登録された他の ARP エントリーはすべて削除されます。
- ARP キャッシュに学習されたポートに ICMP パケットを送信し続けた場合、ARP エントリーはエージアウトされません。

---


#### 4.15 Query メッセージの送信間隔について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

Startup Query Interval の間隔で Query メッセージが送信されるのは、起動後に、最初に IGMP を有効にした場合のみで、一度 IGMP を無効に設定してから再度有効に設定した場合は、Startup Query Interval の間隔では送信されません。

---

#### 4.16 DHCP サーバー機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

- DHCP クライアントからのオプション 57 (Maximum DHCP Message Size) メッセージを受けられません。
- SET DHCP POLICY コマンドの TIMEOFFSET パラメーターには、マイナスの値を設定することができます。



## 5 未サポートコマンド (機能)

---

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。  
太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。

```
SHOW EXCEPTION
SHOW DEBUG [STACK]
SHOW BUFFER [SCAN] [QUEUEPOINTERS]
SHOW FLASH FFS
CLEAR FLASH TOTALLY
DELETE NVS BLOCK [INDEX]
CLEAR NVS TOTALLY
SHOW FFILE VERIFY
SHOW FFILE [DEBUG]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE
ADD USER [MTU] [NETMASK] [CBNUMBER] [IPXNETWORK] [APPLENETWORK]
[APPLEZONE] [CALLINGNUMBE]
SET USER [MASK] [MTU] [NETMASK] [CBNUMBER] [IPXNETWORK] [APPLENETWORK]
[APPLEZONE] [CALLINGNUMBE] [TACRETRIES] [TACTIMEOUT]
ENABLE MAIL DEBUG
DISABLE MAIL DEBUG
RESET MAIL
SET MAIL SMTPSERVER=ipaddr
CREATE LOG OUTPUT [LOCAL]
SET ASYN [ENABLE] [TIMEOUT] [IDLETIMEOUT] [SHELLSERVER] [TENTIMERVALU]
SET TTY IDLETIMEOUT

ENABLE SWITCH DEBUG
DISABLE SWITCH DEBUG
SHOW SWITCH DEBUG
ENABLE SWITCH BIST
SHOW SWITCH BIST
SHOW SWITCH MEMORY
SET SWITCH SOCK
SHOW SWITCH SOCK
SET SWITCH PHY
SHOW SWITCH PHY
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [MODE={MASTER;SLAVE}] [IGMPACTION={DENY;REPLACE}]
[IGMPFILTER={NONE;filter-id}] [IGMPMAXGROUP={NONE;1..65535}] [VLANSTATUSTRA
P={ON;OFF}] [THRASHLIMIT={5..65536;NONE}] [THRASHREFILL=4..65536]
SET SWITCH PORT SPEED={1000MHALF;1000MFAUTO;1000MHAUTO}
ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE
ENABLE PORTAUTH DEBUG={ALL;PACKET;STATE} PORT={port-list;ALL}
DISABLE PORTAUTH DEBUG={ALL;PACKET;STATE} PORT={port-list;ALL}
ENABLE RADIUS DEBUG
DISABLE RADIUS DEBUG
SHOW RADIUS DEBUG
```

ENABLE DHCP Snooping DEBUG  
DISABLE DHCP Snooping DEBUG  
RESET DHCP Snooping Counter  
SHOW DHCP Snooping Filter All

ENABLE VLAN DEBUG  
DISABLE VLAN DEBUG  
SHOW VLAN DEBUG

ENABLE STP DEBUG [PORT]  
DISABLE STP DEBUG [PORT]  
SHOW STP DEBUG  
SHOW STP[={stp-name | ALL}] PORT={port-list;!ALL} RSTPSTATE

DISABLE MSTP PORT  
ENABLE MSTP PORT

ENABLE SWITCH L3 Filter SW Filter Bypass  
DISABLE SWITCH L3 Filter SW Filter Bypass

SHOW IP Cache  
SHOW IP CASSI  
ENABLE IP DEBUG  
DISABLE IP DEBUG  
SHOW IP DEBUG  
SHOW PING DEBUG  
PURGE PING TOTALLY  
SHOW TRACE DEBUG  
SET IP [FLOW] [ARPWAITTIMEO]  
SHOW IP FLOW  
ENABLE TCP DEBUG  
DISABLE TCP DEBUG  
ENABLE IP ICMP Reply MSG={ALL;!NETUNREACH;!HOSTUNREACH;!REDIRECT}  
DISABLE IP ICMP Reply MSG={ALL;!NETUNREACH;!HOSTUNREACH;!REDIRECT}  
SHOW IP ICMP Reply TMSG  
ENABLE IP [SPOOF CHECK]  
DISABLE IP [SPOOF CHECK]  
ADD IP INTERFACE IP ADDRESS FRAGMENT  
SET IP INTERFACE IP ADDRESS FRAGMENT  
ENABLE IP ROUTE DEBUG  
DISABLE IP ROUTE DEBUG  
SHOW IP ROUTE DUMP  
SET IP DNS CACHE  
SHOW IP DNS CACHE  
ENABLE IP ARP [AGE POLL]  
DISABLE IP ARP [AGE POLL]  
SET IP ARP WAIT TIMEOUT  
SET IP ARP REFRESH ARP

ENABLE PING POLL=1..100 DEBUG  
DISABLE PING POLL=1..100 DEBU

ENABLE IP IGMP DEBUG  
DISABLE IP IGMP DEBUG  
SHOW IP IGMP DEBUG  
CREATE IP IGMP DESTINATION  
ADD IP IGMP DESTINATION  
DELETE IP IGMP DESTINATION  
DESTROY IP IGMP DESTINATION  
ENABLE IP IGMP ALLGROUP  
DISABLE IP IGMP ALLGROUP  
ADD IGMP FILTER  
CREATE IGMP FILTER  
DELETE IGMP FILTER  
DESTROY IGMP FILTER  
SET IGMP FILTER  
SHOW IGMP FILTER  
ADD IGMP Snooping RouterAddress  
DELETE IGMP Snooping RouterAddress  
SET IGMP Snooping RouterMode  
SHOW IGMP Snooping RouterAddress  
SET IGMP Snooping RouterMode FastLeave

ENABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]  
DISABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]

LOAD [SERVER=ip6add]  
UPLOAD [SERVER=ip6add]  
SET LOADER [SERVER=ip6add]  
ADD USER RSO IP=ip6add  
DELETE USER RSO IP=ip6add  
ADD PING POLL IPADDRESS=ipv6add  
SET PING POLL [IPADDRESS=ipv6add]

ENABLE MLDSNOOPING DEBUG  
DISABLE MLDSNOOPING DEBUG

ENABLE TEST INTERFACE  
DISABLE TEST INTERFACE  
SHOW TEST [INTERFACE]  
RESET TEST INTRFACE  
SHOW PKT  
SET PKT  
START PKT  
STOP PKT  
SHOW DEBUG [STACK]  
MODIFY  
DUMP

## 6 コマンドリファレンスについて

---

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM 8316XL/8324XL コマンドリファレンス 2.7 (J613-M0249-11 Rev.F)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「J613-M0249-11 Rev.F」はコマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-tesis.co.jp/>